



1. 新しい目標に向かって

新年の始まりは、誰にとっても物ごとの取組への新たなる期待を抱き、挑戦への意欲を高めてくれるものです。だからこそ、今年はどのような自分でありたいのか、そのためにどのような役割を果たすべきかを自分自身でしっかりと意識することが大切です。「わからなかったことが理解できて良かった!」というように、自らの活動の成果を実感するためには、目標を持ち、その実現に向けて力一杯取り組む過程が大きく関わってきます。私たちは、目標があるからこそ努力をし、努力したからこそ成果を期待するものです。目標を設定せず、漫然と努力しているだけでは、意欲も高まりません。そこで、自分自身で目標を定めることで、困難に直面しても乗り越えようとする強い意志を持つことができるのです。とはいえ、努力すれば必ずしも望んだ結果が得られるとは限りません。しかし、目標に向かって努力することや、諦めずに取り組んだという満足感は、目に見える成果以上に本人にとって大きなやりがいとなります。たとえば思うような結果が得られなかったとしても、その努力がすべて無駄になるわけではありません。目標に向けて、自らの力を注ぐことで、充実感や自信が生まれ、次への挑戦につながる意欲を手にすることができるのです。このように、目標を持つことには大きな意味があります。

さて、「学ぶことは、まねること」と言われるように、学ぶ環境にお手本となる存在が欠かせません。めざす姿が見えることで、学びはより確かなものとなります。その意味で、身近な存在である私たち大人には、良きお手本としての役割が求められています。教育は共有であり、「鏡育」とも言われます。子どもは大人の姿を映し出す鏡なのです。新学期を迎えるにあたり、私たちが一人一人が、大人として、教師として、子どもたちがめざす姿であることを常に意識し、目標をもって前向きに取り組む姿勢を示していきたいと思います。

2. インフルエンザを予防しましょう

テレビのニュースや新聞などでは、大阪府がインフルエンザの警報レベルと報道されています。1月には、「大学入学共通テスト」や「私立中学校入試」、2月には、「私立高校入試」、3月には、「公立高校入試」など、受験を控えた時期が続きます。ご家庭の中には、受験生がいっぱいいるところもあるのではないのでしょうか。

招提中学校の子どもたちのみならず、すべての受験生が安心して受験に臨めるように、また、子どもたちが日々安心して学校生活を送ることができるよう、「手洗い・うがい・マスクの着用」など、基本的な感染予防対策に引き続き取り組んでまいりましょう。

3. 目標を持ち公言することの意味

今年も箱根駅伝が1月2日、3日に行われました。往路では目まぐるしくトップが変わる混戦となる中、青山学院大学が3連覇を成し遂げました。「山の5区」で圧倒的な強さを見せた青山学院大学の黒田朝日選手は、「チームとしては総合優勝、個人としてもしっかり区間賞を取れるような走りで優勝に導けるような走りをするというのが目標です」と語っていたそうです。また、「8区」で区間新記録を達成した塩出翔太選手は、「走るなら区間新で、最後は自分の名前にして終わりたい」と話していたそうです。自分自身で目標を設定し、それを公言することで、強い意志を持つことができます。その結果、青山学院は圧倒的な強さを見せたのだと思います。目標に向けて、自らの力を注ぐことで、充実感や自信を得られるだけでなく、次への挑戦につながる意欲も生まれます。目標を持つことには大きな意味があります。大きな目標でなくても構いません。それぞれに合った目標を持ち、努力を重ねていきましょう。